

「八幡音頭」の踊り手

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。
身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

ダンスや演奏 舞台発表／絵画・書など展示

第54回八幡市民文化祭　子どもが点てたお茶 来場者が味わう

第54回八幡市民文化祭が10月24日・25日、文化センターと市庁舎で開催されました。市、市教育委員会、市文化協会が主催するこの祭典は、市民の文化芸術活動の成果を発表する場として毎年多くの人に親しまれています。

文化センターでは、ダンスや楽器演奏などの舞台発表のほか、絵画・書などの作品も展示、木工教室などの体験教室や模擬店も設けられ、多くの人でにぎわいました。

24日には、市庁舎エントランスでは、消費生活トラブル等の事例紹介を行う啓発ブースや多文化共生を目的としたピクトグラム作品展示会なども実施。

25日には、「八幡音頭」などを披露。踊り手の息の合った振り付けに、会場は温かい拍手に包まれました。

両日を通じて市庁舎４階の市民プラザでは、「市民茶会」を開催。子どもわくわく教室でお茶を学ぶ子どもたちが点てたお茶を来場者が味わいました。



市民茶会

好きな料理 １位は「にくっ」

やわたわーるど写真展in市民文化祭

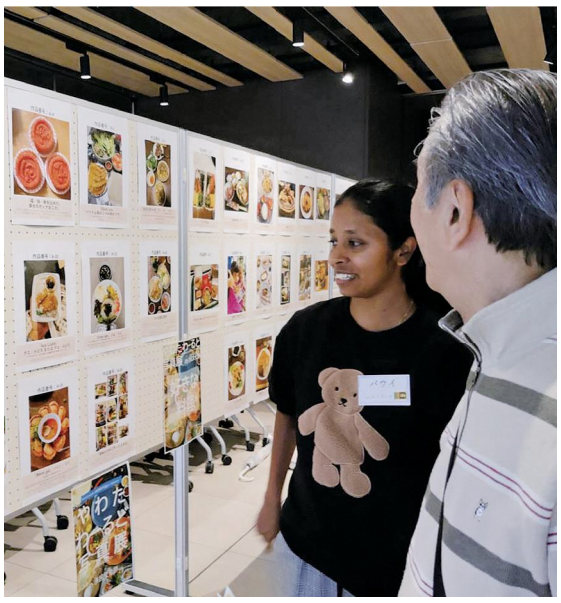
10月24日に「やわたわーるど写真展in市民文化祭」が市役所１階エントランスで開催されました。多文化共生社会の実現を目指し、日本人住民と外国人住民が撮影した写真を展示して交流することを目的とした本写真展は、今年で３回目を迎えます。会場では、摂南大学現代社会学部との協働による学生企画の展示や案内も行われました。



投票結果１位作品

今回の募集テーマは「好きな料理」。応募作品80点の写真が並ぶ会場では、撮影者が自らの作品の解説をする場面も見られました。料理の解説だけでなく、どんなときに食べるのかなど文化的背景についても知れる貴重な体験となりました。

272人の来場者の投票により選ばれた１位の作品のタイトルは「にくっ」。協働して企画を行った学生たち、外国人住民、来場者それぞれの交流の場となりました。



来場者に解説する撮影者



摂南大学学生企画のレースを行う参加者の様子

国籍超え交流 海外料理も出店

やわたすぽーつまるしぇ

11月14日、くすのき近隣公園で日本人住民と外国人住民の交流を目的としたイベント「やわたすぽーつまるしぇ」が開催され、70人が参加。スポーツを通じて親睦を深めました。

イベントは今年で３回目となり、摂南大学現代社会学部の学生が進行や運営に携わりました。

参加者は７つのチームに分かれ、４種目の競技に挑戦。玉入れ、大玉転がし、大縄跳び、最後は摂南大学生が企画したレースで順位を競いました。

年齢も国籍も違う仲間と協力しながら挑むそれぞれの種目に、最初は緊張していた参加者も、次第に笑顔が増え、競技が進むごとに声援も大きくなっていました。

また、「インド・ネパール料理店」「ベトナム料理店」「洋風惣菜店」「和菓子店」が出店し、独特のスパイスの香りに誘われた参加者が、合間の時間に舌鼓を打つ姿も。

参加者はお互いの健闘を讃え合うなどして、自然な交流が生まれていました。

今月のこの人

市スポーツ賞優秀選手賞を受賞



小西（こにし）寿（ひさし）さん

小学校2年生からレスリングを始める。全国高校選抜大会、JOCジュニアオリンピックカップ、全国高校総体、全国高校生グレコローマン選手権に続き国民スポーツ大会優勝。高校５冠は史上延べ13人目。市内在住。

高校３年生の小西寿さんが、令和８年度八幡市スポーツ賞優秀選手賞を受賞されました。

レスリングを始めたきっかけは、体験教室でコーチからセンスを褒められてうれしかったから。

「小学校では試合も楽しかった。中学に上がると結果が出ないことがなによりきつくなった」と語ります。中学に上がったあとの練習は高校生と合同で、頻度も日曜日以外はほぼ毎日と大きく変わりました。

「もともと体も大きくなく、体力も無い。結果が出ないことでレスリングを嫌いになりそうな時もあった」

乗り越えるきっかけになったのは、自身の長所である、こつこつ努力を積み重ねる性格。

中学３年間、通常の練習後さらに１時間の筋力トレーニングに励み、身体能力の向上につなげました。

結果が出たのは高校２年の10月。「これまでの大会で勝てなかった年上の選手にようやく勝てた。とてもうれしかった」と振り返ります。

「レスリングをすると、とても熱くなってしまう。気持ちは熱く、頭は冷静に、を心がけていく」と語る小西さんは、今日も努力を続けられます。